はくがんさん

第 107 号H30 年秋号
伊豆市　法住寺 発行

風神さま

9月末日の大台風24号、もの凄い暴風でした。

この日は宗務所の護法大会が伊東市で開かれ当山からも大勢ご参加を頂きました。伊豆地区から千人の檀信徒の皆さまが参集、日蓮聖人ご聖誕八百年報恩大会でした。洋明上人は宗務所局員として半年前から準備に入り、昌子寺庭は大会のオープニングコーラスの指導を行いました。お陰さまで良い大会となり皆さんが無事帰宅され、ご守護を頂いたと思います。その夜8時頃から台風が接近したのです。

＊

ゴゥッアーッ ガゥッウァー、闇夜の大空をかき乱し、つんざくもの凄い暴風でした。風の神さま、風神さまの猛威です、お寺は山の中腹にあり、南西の風が巻き上がりぶつかってきます。こんなに風神さまの大威力を感じたことは今までありませんでした。まさに畏敬、もちろん怖かったのですがそれ以上に大自然の大きさを思うのでした。それでも南無妙法蓮華経と手を合わせると、心の奥底の気持ちが通じたような想いになり落ち着くのでした。

＊

その通ずる想いは毎朝のお勤めで感じているものでした。

「一々文々(いちいちもんもん)　是真仏(ぜしんぶつ)」、法要などで聞きなれている方も多いと思います。「お経の一つ一つの文字が真の仏さま」と云うことです。お経の一文字ずつを仏さまと思い拝読すれば、仏さまを感じ仏さまの世界に入っていけるというのです。私も朝のお勤めで「そうなんだなぁ」と思えるようになってきました。

＊

お祖師さまは「法華経の祈りの叶わぬことはなし」とも示されます。私は若い頃、エエェ～ッ、ホントゥ～と疑ってしまうのでした。祈りを自分の都合に合わせ、欲望などの次元でとらえていたと思います。自分の欲するように叶う、そんな都合の良いようにばかりはいきません。お祖師さまの祈りは心の奥底の魂の祈りですから、物欲、私欲などはなく法華経の祈りなのです。ですから祈りの叶わぬはずがないと誠に晴れやかです。「一つ一つの文字が仏さま」と拝読する、そのことが祈りそのものだと想うのです。

＊

毎朝お勤めで一々文々拝読していると、本堂正面のご本尊さま、日蓮聖人さまに気持ちがスゥ～ッと入っていけるのです。あの台風の大暴風の時も、風神さま、南無妙法蓮華経と祈り、後は「なるようになる なるようにしかならない」と寝入ったのでした。

［ 寿量の祈り　敬意と感謝 ］

大自然　ありがとうございます。　合掌
社会の皆さん　ありがとうございます。　合掌
ご先祖さま、家族の皆さん
ありがとうございます。　合掌

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

その日は たまたま妹の都合で実家の母を病院に連れて行くことになった。病院内は もちろん車椅子で移動。午前中に先に順番を申し込んであるのだが3時間ほど待っただろうか。何しろ名医、それも若くて話をよく聞いてくれて腕も良いとのことで、中には5時間待っている方も居た。

そういう長～い 待ち時間の外来には独特の空気がある。独特だ、暗い。皆さんいつ自分が呼ばれるか、じっと待っている訳だが、その待ち時間が3時間を越えると中には「いつ呼ばれるんですか」等と看護士さんに詰めよる人もいる。皆疲れているのだ。わかっているけど疲れるのだ。そして待合所には疲れた暗～い空気感が漂う。

そんな中で一人の女性が呼ばれた。歳の頃私くらいかな、車椅子で一人待っている方だった。名前を呼ばれた時、その方は「すみません、私 一人で車椅子をこいで行くことができないんです」と言った。しかし忙しい看護士さんは中に入ってしまい なかなか出て来てはくれない。しかたなく彼女は自力で車椅子を動かし始めた。

待っている人たちは皆一様に黙って見ていた。その時私は迷った…。そして「助けたい!!」と思った瞬間、自分の体が動いてその人の車椅子を押していた。その方は「いいです…」と小さな声で言った。が、最後に「ありがとうございます」と言って診察室に入って行った。

大勢の中で自分ひとりが行動を起こすのは なかなか気のすすまないものだ。しかしながら人目を気にするよりも目の前の人が少しでも楽になれたら何も思うことはない。

私が驚いたのは、その後の待合の空気感が何となくではあるが変わったことだ。何より私の母が微笑んでくれていた。

台風24号の被害

大きな被害にはなりませんでしたが、ご報告します。

・本堂前の石段脇、一本杉の上部が折れ飛ぶ。

・本堂裏の道路に山の斜面から一抱え程の丸石が転げ出しガードレールにぶつかる。

・中庭の樹齢数百年のサルスベリの枝とその支えが折れる。

・駐車場の大ケヤキの太い枝が折れ宙ぶらりんに。道路脇だったので加藤電機さんに高所作業車を依頼、処理して頂きました。

・第二墓地斜面の枯れヒノキが倒れる。

ガードレールの高さほどの石

塩害

ケヤキ等の薄い葉で台風24号の風が当たった南向きの所が枯れています。同じ木でも裏側の方は大丈夫。海から離れたこんな山の中でも大風で潮が運ばれたのです。大自然の威力を感じます

寺子屋

今年も大勢の子供たちが参加、楽しく輝いた夏の2日間を過ごしました。野菜など用意し畑で収穫体験させて頂き、またボランティアの皆さまも ありがとうございました。

トイレ改修

書院トイレは男女兼用だったので男女別々に改修させて頂きました。思ったより大々的な工事で、一旦全部壊してから柱材も入れ替えたりしての工事でした。

濾水

検水員さんから水漏れがあるかもしれないと云われ石原水道さんにみてもらいました。水漏れ検知機では分からず、書院裏口を掘り一旦バルブを取り付け更に奥へ。風呂や洗面所の鉄管が腐食して漏れていたようです。ジメジメした場所で泥だらけになっての大変な作業でした。

お会式

当日は秋晴れ、朝から気持ちの良い好天、早朝より白龍会の有志が万灯づくり、10時過ぎには役員さんの奥さん方が昼飯づくり、役員さんが集まり会場づくり、昼過ぎには小川地区の女衆さんが清餐準備に。

この日までには万灯の花づくり、野菜やコンニャク等の収穫物の奉納、前日には餅つきと本当に多くの方々のお力でお会式を迎えることができました。

午後2時半、万灯行列出発、お会式報恩法要、お子さんの献灯献花は毎年感動します。護持会総会後は清餐、手づくりのネギヌタ、キンピラ、煮つけ等、そして年に1回のお酒、愉快に楽しいひと時でした。

多くのお力を頂いて何百年と続いている伝統行事を行うことができました。住職として力の及ばないこともありますが、皆さんと

寺子屋 ツリークライミング

寺子屋 正座も出来ちゃいました

寺子屋 手作りカレーで～す

お会式 元気に万灯太鼓、纏

お会式 可愛い～!! 献灯

お会式　愉快にやるべ～じゃ～

共に中伊豆の故郷に伝えるお会式です、今後とも宜しくお願い致します。

洋明さんのおはなし

先日、お世話になっている先輩上人との話です。あるお婆さんの葬儀中の事。その葬儀に参列していたお孫さんの女の子に、亡くなったお婆さんの霊がのり移りこう話したそうです。「数年前に先立ったお爺さんのある事を許せない！」と。話を聞くと、終戦となったある日、お婆さんが戦地に行ったお爺さんの帰りを駅で心待ちにしていると、電車から降りてきたお爺さんは、お婆さんに気付かずどこかへ遊びに行ってしまったそうなのです。そのことが許せないというのです。その先輩上人は、お婆さんの霊に引導を渡し諭していると、今度は男の子のお孫さんにお爺さんの霊が降りてきて「いやいや悪かったよ。一緒にあっちに行こう」と言って事は収まったというのです。

そしてその後の四十九日間、何とそのお婆さんの霊は家にいて、お嫁さんに「まだそれは片付けないで！」などお孫さんに時々降りてきては言っていたそうなのです。しかし四十九日の日に「〇〇さんのあげてくれたお線香がおいしかった。ありがとう。」と言いそれからはピタッと降りてくることはなかったというのです。

＊

この話を聞き私は「やっぱりそうか！」と嬉しくなりました。ご先祖さまが、私たちのおあげするお線香が美味しいと言ってくれるのです。それを今まで「何となくそうであろう」と思っていながらも、今回の話ではっきりと確信でき、まさに感謝感激でした。

さてそれでは、ご先祖さまはお線香だけが美味しいというのでしょうか？実は皆さんが、ご先祖さまに思いをもってお供えすれば、生花も、お菓子も、何だって美味しいのでしょう。思いをもって行動すれば、何だって嬉しいのでしょう。本堂の位牌堂、ご自宅のお仏壇、それぞれの墓所、その場で思いを形に表せば必ずご先祖さまは笑顔になる。お供え物・お線香は値段ではなく、その時の心の値が美味しさにつながるのです。

＊

この話を信じる信じないは皆さん次第。しかしこの時の先輩僧は、私にとって仏さまからのお使いと思えたのでした。今までの何となくから「やっぱりそうなんだ！」と確信に変えてくれたのです。「皆を善く良くしたい」という仏さまの使者であり、何より心を豊かにして下さったのです。

御志納金［八月～十月］

住職			
富士市	瓜島	日洋殿	トイレ工事砌
富士市	渡邊	英弘殿	尊伯母供養砌
城	鈴木	博行殿	尊母葬儀砌
清水	森野	宗昭殿	尊父葬儀砌
清水	森野	宗昭殿	尊祖父葬儀砌
沼津市	加藤	宏明殿	尊父七七日忌砌
富士市	渡辺たみ江殿		尊母供養砌
伊豆国市	田上	和子殿	永代供養砌
伊豆の国市	青山家殿		永代供養砌